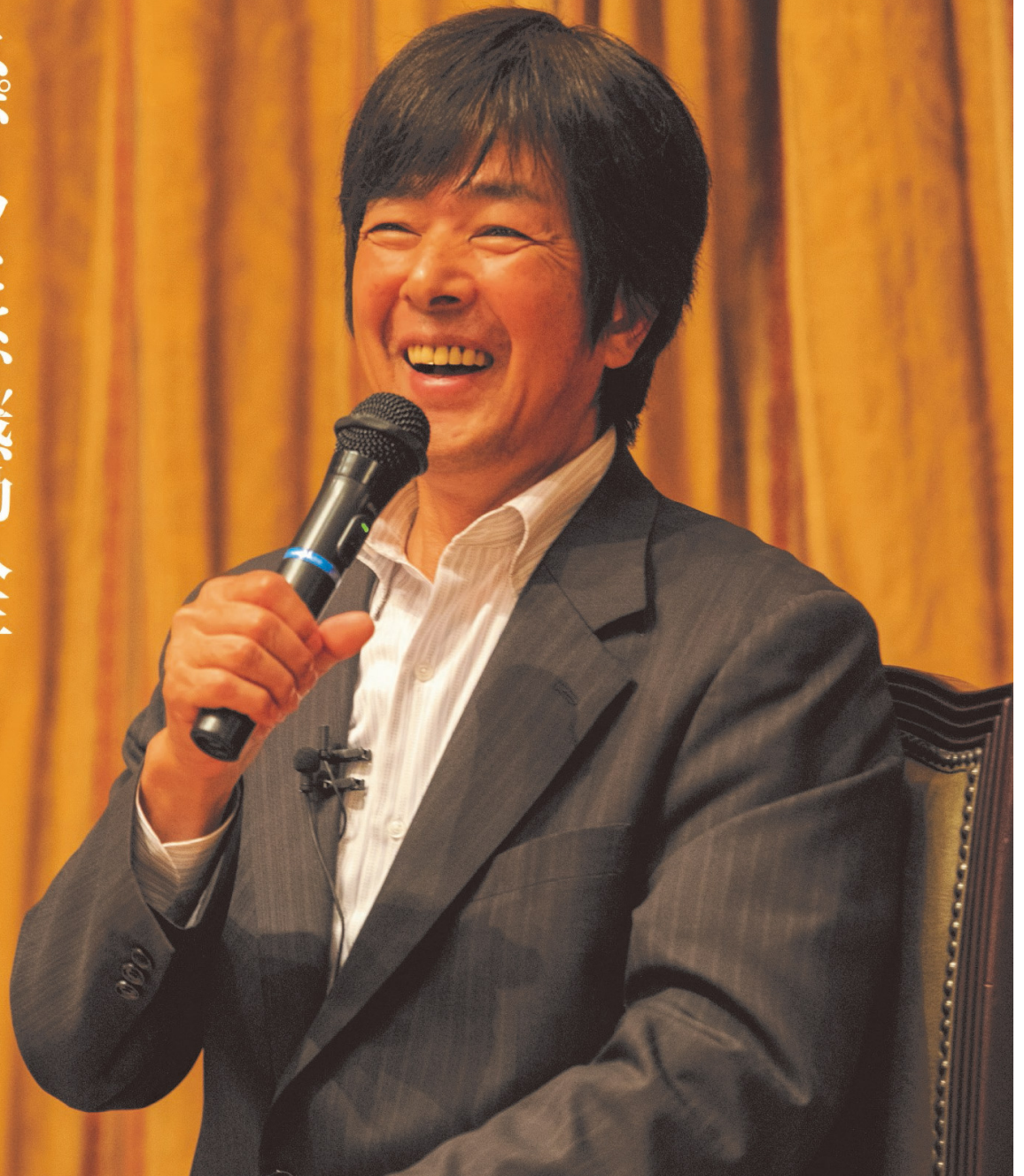


スポーツ文化フォーラム Session 7

ジャパネットたかた 創業者
株式会社A and Live 代表取締役

高田 明 氏

スポーツとは、
“感動人生”
by 高田 明



スポーツは文化である

スポーツドクターとして、
「スポーツは文化である」と
世の中に伝えたいと思っています。

文化にはスポーツもあり芸術もあり、音楽もある。
人間の心の豊かさを作る活動すべてが文化なのです。

スポーツの文化的価値は、
医療性、芸術性、コミュニケーション性、教育性、
この4つであることに行き着きます。
人はこの4つがないと、人間らしく生きていけません。

スポーツの医療性によって**元気**を、
芸術性によって**感動**を、
コミュニケーション性によって**仲間**を、
教育性によって**成長**を。

「スポーツは文化」と言える国にすることが、
私の志でありミッションの1つでもあります。

明日を変えるカギ “今を生きる”

辻 高田社長にとってメンタルトレーニングというのはどんな印象というか、位置づけで捉えていらっしゃいますか？

高田 全てがメンタルだと思ってます。企業も個人も。人間は心の持ち方でどうにでも変わると確信しています。

辻 それは書籍（「伝えることからはじめよう」高田明著）の中で語られている「目標を持たずに目の前のことに300%頑張ってきただけ」という言葉にも繋がりますね。

高田 今の世の中は複雑で人間は未来のことばかり悩んでいます。ただ、未来のことを悩んでも明日は変わらない。でも明日が変われば一年後、十年後は変わってきます。では何が変われば明日が変わるの

か。それは今という瞬間をどれだけ一生懸命に生きるかということに尽きると思うんです。加えて過去は更に厄介です。

過去と未来を考えても明日は変わらないのだから過去も未来も考えるな、とにかく“今”じゃないか、どんなボトルネックも今を頑張れば必ず解決する。そしたらまた次のボトルネックが出てくるんです。そうして人生は次から次へと試練が来るから僕らは生きていると思うんです。全く試練がなかったら僕らは生きている価値がない。ボトルネックを乗り越えて一つひとつ階段をのぼっていくことで人は自分の思い通りの自分になれる。良い言葉ですよね。ゲートです。これが正に“今を生きる”ということだと思っています。

（がんばっている）

“つもり”という落とし穴

辻 “300%がんばる”は具体的にはどのようなイメージでしょうか。

高田 皆さん一生懸命頑張っているしやると思います。でも“がんばっている”には危険なことが一つあります。それは“つもり”になること。“つもり”になっている人は十年、二十年経っても絶対に自分を変えていくことが出来ない。自分が“つもり”になっていたことに気づいて200%、300%やっていくことが人生を変えるんです。ラジオショッピングを始めた頃、たくさん売れ残りがあったので「なぜ売れないのか」を考えながら何度も繰り返ししているうちに気が付いたんです。伝えた“つもり”になっただけで伝えていなかったんだと。同様に、頑張ることも頑張っているつもりを変えていくことがとても大事だと思うんです。

辻 「頑張っているつもり」というのは痛い言葉です。自分の“つもり”に敏感になるということです。他人が評価することは難しいですね。

高田 僕は全ての社員を家族だと思ってるので評価ではないですが「あなたとはもつと成長出来るけど、づもり」になつていないか」と問い続けています。なぜかというと（彼らに）関心があるから。だから気づいたことを遠慮なく言います。今は叱らない親が多いと言いますが親は叱ってあげないといけないんです。関心は愛情の表れです。

辻 「成長」というのも大きなテーマですね。

高田 成長というのは仕事を通して相手の自己実現を叶えてあげることだと思っと思っています。人は自己実現を感じたときに初めてモチベーションが上がるので「頑張れ、がんばれ」と言っても結果を出させてあげないと意味がない。だから社員に指導をしているときでも、づもり」になつていいると感じたときはもの

すごく厳しいですよ。「間がダメだ」とか「相手のことを考えて、自分の言い分だけ言うな」とか。

伝える “我見” と “離見”

高田 伝えるということについても伝えた「づもり」というのは本当にダメです。何も変化を起こさないから。400年程の歴史がある、三重県の伊賀の里というところで撮影をして土鍋を売ったことがあるのですが、それが大変よく売れましたね。終了後に「当主のところはなぜこんなに有名で売れるんですか？」と聞いたら「この伊賀の里は有田焼と同じ400年の歴史がある。でも今までは職人ばかりで商人がほとんどいなかった。私は職人と商人になつて作るだけでなく伝えることをしたんです。」とおっしゃいました。伝える人がいないと日本の地方創生は出来ないという事です。日本は国をあげてもっと情報発信をしていかなければいけないと思う

んです。ただ、その声を出す時に気を付けなければいけないのが「我見」というもの。つまり自分の言い分だけを言うことです。我見の反対は離れて見ると書いて「離見」と言います。世阿弥の「花鏡」という本の中で「離見」というのは、例えば私が皆さんに話をするときでも皆さんの心を感じて話すこと、自分の言い分だけ言つても伝わらないですよ、と説かれています。子どもに勉強しろと一方的に言っている母親では子どもはどんどん反発するだけです。少し間を置きながら子どもの気持ちを鑑みて語る。我見ではなく離見をもつて語る。それが伝えるということですね。

“玲瓏”な心から生まれる直観

辻 高田社長は「目標を立てない」ということもおっしゃっています。みんな「目標を持ちなさい」と言いがちですがこれはどういうことでしょうか？

高田 目標を立てないということの真意は、目標は変わっていいということです。

激変している世の中ですから一年先の目標に向かっていくうちに状況も目標も変わっていかねばいけない。今を一生懸命に生きていたら状況変化に対応できる自分を作り出すことが出来るわけです。更
に言うと、変化対応をしているだけではなく変化を作らなければいけない時代です。そして、そのためにはひらめきや直感を掴んでいかないといけない。皆さんが今を生きていることを続けていけば直観やひらめきが付いてきてそれが変化を作り出す力に繋がっていくと信じています。

辻 心がフローになっている状態を棋士の羽生さんは（澄み切ってとらわれのない）玲瓏^{れいろう}とおっしゃっているのですが、玲瓏^{れいろう}な心の状態のときに直観が冴えると考えられていて脳科学的に直観はほぼ間違いないと言われています。それで

はなぜその直観が中々出てこないのかという玲瓏じゃないからです。つまり人は“こねている”のです。そして「直観はどうなんだ」とか「これが正解なのか」とかを考え出してしまふ。そうならないように如何に心を揺らがずとらわれずの状態に整えるかがとても重要で、それをもたらす生き方が“今を生きる”ですね。

高田 直観と聞くと場当たりに思われてしまうこともありますけど、“今を生きる”ということを経験的にしている人は、ひらめきや直観こそが正解を導きだすと分かっています。これは△とかを越える能力だと思いませんか？

辻 そうですね。本来直観というのは思いつき論とは違って過去の経験や知識などその人に備わっているすべてをもつて導き出される素晴らしい能力だと思います。

失敗か、試練か。

高田 もう一つ、今を一生懸命生きることに関連して、僕は人生の中で失敗が一回もないということについてお話をさせてください。僕は“失敗”というのは今を一生懸命生きなかった結果の表れだと思っています。一生懸命目標に向かっていくプロセスが一番大事なんです。思い通りの結果が得られないことはあるんですよ。でも、一生懸命がんばったプロセスがあれば、いつか自分が思い描く自分になれる瞬間が来ると僕は信じているんです。そういう意味で上手く行かなかったことは“試練”だと捉えているんです。

辻 そうですね。みんな上手く行くとか行かないとかを考えて右往左往していますが、結局今この瞬間を生きていくことしか出来ないですよ。時間は常に前に向かっていて、新しい今というのがやってくる。

無理やり前向きにする必要はないんです。今に生きて、自然体でいれば僕たちは必ず前向きになるんです。それをわざわざ振り返って、あれを良いように考えようとかするから苦しくなってしまうんですよ。だからいつもこの瞬間に一生懸命やっていたら、それ自体がもう前向きということになります。

人間性をはぐくむ

辻 スポーツにおいて「人間性がないと勝つことは出来ない」という考え方がある一方で「人間性があるから弱いんだ」という考えをもつ指導者もいます。そのあたりはどうですか？

高田 例えばサッカーで考えると欧州ではアカデミーやユース、スクールの中で「人間形成」ということがとても大事にされています。僕らの長崎V・ファールンでもスクールの子どもたちを強化していくた

めの戦略がありますが、彼らがスクールに通うようになってお母さんたちから「うちの子、礼儀正しくなったな」「サッカーも一生懸命に頑張っているな」と思ってもらえるように育てることがサッカーチームを率いる上での一番のミッションかもしれないと考えています。

辻 子どもたちをイギリスのプレミアリーグに連れて行った方の話を伺った際にトップチームの人たちのメンタルトレーニング事情を聞いたのですが「一番大事なのは子供の頃からそういうことをしっかり取り入れていること」と言われたそうです。メンタルトレーニングの手法は色々ありますが目指すところは人間性を豊かにすることです。その根底はライフスキルで、心を強くすることは本当に大切だということですよ。

スポーツとは「感動人生」

辻 最後になりますが「スポーツとは」という問いに対し、「感動人生」というお言葉頂きました。これについて少しお話いただきたいと思います。

高田 感動は感じて動くと書きますね。僕自身が感じる感度の強い、感動する人間です。スポーツほど人に感動を与えるものはないと思っています。観ている人がものすごく幸せな気持ちになるじゃないですか。負けたときの悔しさがあるから勝ったときの喜びもありますよね。スポーツは感動そのものです。

辻 僕はスポーツというのは「元氣・感動・仲間・成長」であり、そういう意味でスポーツは文化だという考えを持っているので、尊敬する高田社長から「感動」という言葉をいただけるだけで嬉しいです。スポーツはいまだに原始的で、感じてプレイするので好きなんです。人間が忘

れそんなものを感じ取りながらやっていますよね。「今からパスするぞー」とかメー
ールするような世界ではないです。負け
たら悔しくて泣くし、小さいコトでもす
ごく大喜びして、一緒に感動し合うとい
う人間らしさが残っているのがスポー
ツだと思ふのです。

高田 本当にそうですね。先日ゴルフ
の松山英樹さんがあられだけ泣いている姿
をみてすごく感動しましたけど、スポー
ツは人種や国の問題を超えていますよ
ね。最高です。

辻 そうなんです。皆さん、スポーツは最
高なんです。今日は本当にありがとうございました。

二〇一七年八月二十四日
スポーツ文化フォーラム



2017年8月24日
スポーツ文化フォーラム
Session7
綱町三井倶楽部

編集 株式会社エミネクロス
撮影 田口聖也
製作・発行
株式会社エミネクロス

高田 明

ジャパネットたかた 創業者
株式会社A and Live 代表取締役

1948年長崎県生まれ。大阪経済大学卒業後、機械製造メーカーへ就職し通訳として海外駐在を経験。74年に父親が経営するカメラ店へ入社。86年に「(株)たかた」として分離独立。99年に現社名へ変更。90年にラジオでショッピングを行ったのを機に全国へネットワークを広げ、その後テレビ、チラシ・カタログなどの紙媒体、インターネットや携帯サイトなどでの通販事業を展開。2012年には、新たな拠点として東京にオフィスとテレビスタジオを開設する。

2015年1月に「株式会社ジャパネットたかた」の代表を退任し、同時に「株式会社A and Live」を設立。

社名の由来：今を生き生きと生きる世の中にしたいという想いから2017年4月、サッカーJ2クラブチーム「(株)V・ファーレン長崎」の代表取締役社長に就任。

スポーツ文化フォーラムとは

スポーツや文化、人生などについて
より豊かな毎日を送るヒントや気づきを
多方面でご活躍される文化人をゲストにお迎えし
スポーツドクターと対談するイベントです。

<http://www.doctor-tsuji.com/>